

## 希学園 第397回 小5公開テスト 解説動画

下記、URLよりご視聴いただけます。

動画タイトル	URL
第397回公開テスト 小5国語 解説動画(2025年6月8日実施)	<a href="https://vimeo.com/1091410568/ffd972dfdf">https://vimeo.com/1091410568/ffd972dfdf</a>

1

イ

イ

いかに

(記述題)

ア

大阪は俗悪

工

何度も何度

工

首

建

一

広告

取材

調達

美辞

発信

安直

2

ウ

イ

エ

どの山男も

火を使わない

イ

(記述題)

鹿

ア

命がその姿

エ

二つめ

山男

三つめ

深い森

(10 完答)

1

メデイアが視聴者の偏見に合う映像ばかりを制作するためにこしらえていく。○

(同意可)

2

生き物の命を奪わなければならぬ

(同意可)

配点	
1 10・11 2 1	各2点×12=24点
1 4 2 5	各6点×2=12点
その他	各4点×16=64点
100点	

① (井上章)『関西人の正体』より)

- 1 エを選んだ人は、問いの「筆者がそう考える理由」という部分を見落としている。筆者自身は「御堂筋は、大阪の中心にある。……大阪の街区である。それが、どうして大阪らしくないといえるのか」とあるとおり、御堂筋が大阪らしくないとは考えていない。
- 2 アの「あらかじめ」は、前もって、イの「おもむるに」は、ゆっくりとの意。ウの「さぞかし」は「くだろう」につながる推量を表す。エの「ちなみに」は少し話がそれるが補足の説明をするというときに用いる。
- 3 「どのような業者ですか」という問いだが、◎の文を読めば、業者から動物をレンタルする理由が問われていることがわかる。
- 4 ——線③に言葉を補えば「……事情はそれとあまり変わらない」のようになる。この「それ」は、「(日本の視聴者が)求めているのは、いかにもアマゾンらしい映像なのである」をさしている。——線③は段落冒頭の一文なので段落の残りを読めば、「大阪の場合も」「大阪らしい」映像が求められるという内容が読み取れる。この問いは、「アマゾンの話と大阪の話のどのような点が似ているのですか」という問いなので、共通点を答えないといけない。すなわち、「アマゾン」「大阪」といった言葉は用いずに答えを作る必要がある。

5 ——線④をふくむ一文は「そういう期待が、ほとんどかけられていない」から、「御堂筋の都市美」は「維持でき」ないだろうと述べている。「都市美」が求められていないから維持できないということである。

6 問いの「その内容を述べた一文」という表現に注意を払う。レッテルの内容を「うかがわせる」一文、あるいはレッテルの内容が「読み取れる」一文とはニュアンスが異なる。答えとなる文は、文として「大阪の街にはられたこのレッテル」を正面から述べているのでなければならぬ。したがって「大阪(と)は……」のような形の文になると見当をつけることができる。

7 「そのところで、あわれを感じる」と述べており、「そこ」がさしているのは「そんなもの(＝他地方の人間が……はってしまったレッテル)」に自分をあわせ」ることである。

8 お金に関係のあることを述べている一文である。

9 「こういう愚説」は直前の「てごろなストーリー」やさらにその前の「アンチョコな図式」と同内容である。

10 X「首を長くする」は待ちこがれる意。Y「建前」は直前の「本音」の対義語である。Z「一刀浴びせる」は慣用的な言い回しとしては、やり返す意になる。

11 a「広告」は宣伝のことである。b「取材」は記事や作品の材料を実際の出来事などから集めること。c「調達」は「達」の画数に注意を払う。d「美辞(麗句)」は美しく飾ったことばの意。e「発信」は電信・電波・郵便物などを送ること。f「安直」は手段や対応が手軽で安易なようす。

② (奥山淳志『百の命』より)

1 Aは「足音ひとつ立てることなく」から、Bは「滴をたらして」から、Cは「光った」から判断する。

2 山男の考えは文中にはっきりと書かれているので通読時に記憶に残しておきたい。「山男にとって、この命の姿が人間との違いだった」とあるので、「この命の姿」がさしているところが答えになる。

3 人間と異なる点であり、かつ料理をしない理由にあたる内容である。

4 後半にも「手を叩いたが……」という部分がある。そこに「息子の命がひとつ失われたことを知った」から「泣きそうな表情を浮かべた」と書かれている。

5 ◎の文が最大のヒントになる。「生きるために」することであり、「自分の命が一つ減る」ような行為である。

6 問いに「ここより前から」とあるからといって、すぐに「ここより前」をさがすのではなく、続きを読んで「あいつ」が何ものかを確認してから「ここより前」にさかのぼる。

7 「息子の気持ち」は文中にはっきりとは書かれていないが、「この視線(＝父の視線)」を感じると……笑った」とあることから考える。はじめてのことなのでエの「父よりも……上手になった」はおかしい。

8 問いの「死に対してどのような考えを」という言い方からある程度見当がつけられる。はじめの通読時に、人物や筆者の思想や根本的な考え方が述べられているところには注目しておきたい。

9 選択肢ひとつひとつについて、書かれている内容が文中に実際にあるかどうかを確認していく。アについて、文中に「登場人物たちの会話」はほとんどない。イについて、「山男たちの……個性」に該当する内容を読み取ることができない。むしろ似た感じで描かれている。ウについて、「命の大切さ」は書かれていると言ってもよいが、「動物愛護の精神」はおかしい。山男の父は、動物を殺すことをためらってはいない。エが正しいことは、「森は深く……黒い葉を……暗かった」や、「赤銅色」「瞳の奥を赤く」「水は空を映し」「夕陽のように赤く」「白い湯気」「赤い泡」「青い夜」などから確認がとれる。

10 ★の後と同じように、山男について説明をしている部分がある。★より前にもある。そこが二つめの部分ということになる。冒頭の二つの段落が「二人の山男が歩いて……森の奥へと進んでいった」となっているが、この続きが「深い森を足音ひとつ立てずに歩いていた山男の親子は……」以下である。